

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572609105		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	グループホーム福寿草		
所在地	秋田県大仙市福田字川原道下55番地1		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

秋田県介護サービス事業所認証評価制度の認証により、「子育てに優しい」「有給休暇が取りやすい」「資格取得のサポートがある」「働きやすい職場になった」と職員から生の声が上がっている。また、積極的な雇用改善により、職員の仕事への意欲向上を図っている他、職員の負担軽減や働きやすい職場づくりのための制度整備等を行うなど、他の事業所の模範となる魅力ある介護事業所として、「全国優秀賞」を受賞し、公益財団法人介護労働安定センターの理事長より表彰されております。今後も、働きやすい環境の中で、入居者様一人ひとりが好きなことや出来ること、やりたいことを行えるよう、チームで支援し、入居者様と職員がお互いに感謝の言葉を伝え合いながら、ゆっくりとした時間を大切に過ごしていきたいと思っている。

2ユニットのメリットを活かし、また、法人内のグループホームの連携によって充実したサービス提供が行われています。利用者の思いを大切にしながら日々の暮らしを支えると共に、利用者のやりたいことの実現のためにできる力を引き出し、支援に活かしています。職員は利用者がホームの中で生きがいを見出せるよう一人ひとりに寄り添い、気づきを大切にしながら支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が専門職の視点で話し合いを重ね決めており、常に意識できるようホールやトイレに掲示している。認知症があっても入居者様一人ひとりが考える当たり前の生活を継続できるよう実践している。	年度末に理念の実践状況を確認し、新たな作成または継続を決めています。利用者一人ひとりを尊重し、持てる力を暮らしに活かす支援を実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜をいただいたり、床屋に出掛けたりしており、地域の秋まつりには作品を出展し見学に出掛けている。今年は地域の小学校が野球で全国大会に出場しており、入居者様の喜びにもつながった。	コロナ禍で中止となっていたこともありましたが、事業所自体は地域の一員としての繋がりが保たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の代表者等が参加する運営推進会議の中で、認知症の方の理解を深め、対応方法などの研修内容を紹介するなど、地域に向けて発信している。認知症に関する随時相談対応できる体制も整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は対面で行っており、日常の様子や行事、職員の研修内容等の取り組みを書面や写真等で紹介し、ご意見をいただいている。それらのご意見は、職員全員で共有し、更なるサービスの質の向上に努めている。	会議には利用者も参加して楽しかったことや生活の様子を話しています。参加メンバーそれぞれの立場から出される意見を運営に活かせるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様の心配事や病院受診、金銭などの生活に関する相談や対応、ワクチン接種の手続き等、市の生活支援課や市の社会福祉協議会とも連携しながら入居者様の生活や事業所運営を支えてもらっている。	運営推進会議ではコロナ禍においても文書で意見をいただいている他、日常的にも疑問なことがあれば電話等で相談し、連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回は身体拘束や高齢者虐待についての研修を行い、正しく理解するように努めている。身体拘束では、言葉による行動制限を含めた身体拘束ゼロのケアを実践し、虐待については高齢者虐待防止関連法についての理解を深めると同時に、不適切ケアの芽を摘む取り組みを行い、人権尊重義務についても学んでいる。	職員は研修を通じて身体拘束、虐待防止に向けて強い認識をもって取り組んでいます。特にうっかり言ってしまうがちな言葉がけについては、工夫することで意識して対応できるよう話し合っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、権利擁護に関する制度の理解に努めている。現在、日常生活自立支援事業を利用している入居者様もおり、今後も制度利用の必要性が高まることが予想されるため、活用できるように支援していきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定等の説明を行う時には、書面や口頭で説明し、ご理解いただいた上で同意を得るように努めている。また、入居後も不安等を話していただき、納得できるような対応を心掛けている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口を記載し、外部への相談等も可能であることを伝えられている。ご意見等は面会時や電話でいただくことが多く、内容は代表や職員とも共有し、事業所運営に反映させている。	自由に面会できない期間には、メールも意向引き出しの手段として活用しました。毎月の状況報告書に返信していただくこともあり、反映できるように努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	キャリアパスを軸とした資格取得等の支援や家庭の事情に応じた短時間勤務など、個々の環境に合わせ支援している。面談や会議など、日頃から意見や報連相しやすい環境作りに努め、運営にも反映させている。	ユニット間の連携を図って利用者の状況把握に努め、業務に反映させる体制がとられています。職員の意見、提案は代表に伝えられるシステムが構築され、円滑な支援に繋げるための環境整備等に繋がっています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は同業者や商工会の集まり等で、職員は地域密着型サービスの外部研修やリモート研修のグループワーク等を通して情報交換等を行い、良い取り組みは取り入れるなどしてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの共有だけでなく、不安な事や困っている事、思いなどを話していただけるような雰囲気作りを行い、表情や声のトーン等からも気持ちを把握するように努め、早期の信頼関係の構築に努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りを行い、これまでの経緯や思っていること等を話していただきながら、在宅等での介護に敬意を表すようにしている。また、ご本人様が同席しない場所等でも思いを伺うようにしている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できること」を把握し「していること」に繋がる働きかけを行い、感謝の気持ちを伝えながら一緒に作業し、自尊心を保てる関わり方を大切にしている。一人一つの役割を持ちながら皆で生活を作り上げている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や写真等で状況を伝えており、ご家族様にしかできない関わりを大切にしながら、面会や外出等の支援を継続できるようケアプランにも反映させ、ご家族様と一緒にご本人様の生活を支えている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	昔から馴染みにしている美容院に出掛けて話をしたり、携帯電話や手紙で近況報告されたりする入居者様の支援を行っている。遠方にいる高齢の兄弟等の面会もあり、感染対策を行いながら対応している。	入居後も継続して行っていることが多々あり、利用者にとっては馴染みの暮らし方ができています。職員に利用者の希望を叶えてあげたいという思いがあり、家族の協力も得ながら理念に沿った支援が行われています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、良好な関係づくりに努め対応している。体操やレクレーションは2ユニット合同で行っており、ユニットを超えた個人的な交流も多く、一人ひとりが孤立しないような働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困ったことがあったらいつでも相談してほしい旨を伝えていることもあり、以前利用されていた入居者様の妹様が入居されたり、退居後再び入居希望された方もいる。今後も関係性を断ち切らない関わりをしてきたい。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話から思いを汲み取り、実現させる方向で考え、ケアプランにも反映させている。思いの表出が困難な場合は、ご家族様からご意見をいただいて対応しており、ご本人様の望む生活に向けて努力している。	二人きりの時が思いを知ることができる良い機会と職員は心得ており、さまざまな場面での気づきを大切に、記録して共有しています。面会時に家族から聞いた話でも暮らし方の参考にしています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から馴染みの暮らし方についての情報を集め、今後の暮らし方も含めた思いの把握に努めている。習字や大正琴、短歌、カラオケ等の準備があり、生きがいや趣味等を継続できるようにしている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご本人様のやりたいことや思いを実現させるためのケアプランになっており、ご家族様や多職種からの意見を取り入れながら作成している。実践と評価を繰り返しながら、職員全員で随時見直しも行っている。	担当職員が中心となってモニタリングし、他の職員とも話し合い、本人、家族の意向が反映された介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと連動した様式になっており、ケア内容を意識しやすくなった他、新たな課題や気づきを共有しやすくなり、個々の対応に活用されている。また、次のケアに繋げるための見直しの際にも記録を活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の秋祭りに作品を出展して見に出掛けたり、図書館から読みたい本を借りたり、業者から介護シューズを試し履きした後に購入できるようにするなど、安全に配慮し、豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人様やご家族様の希望を大切に、受診の付き添いも支援している。協力病院やかかりつけ薬局は休日でも対応していただき、以前からのつながりを活用した訪問歯科診療も利用に至るなど、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の意向によっては協力医に変更する場合もあり、利用者毎の希望に応じています。薬局にも服用の仕方について相談して対応していただく等、医科、歯科、薬局と連携し、適切に支援できるよう取り組んでいます。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が配置されている他、法人内の看護職に相談してアドバイス等をもらい、対応や受診等を行っている。緊急時マニュアルも随時見直しており、状態を見極め、適切な医療を受けられるよう努めている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はスムーズに治療を受けられるように書面と口頭で情報提供し、病院職員と連携しながら退院までの支援を行っている。また、医療と介護の連携強化の研修会等にも参加し、つながりや協働を大切にされた良好な関係づくりに努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「医療連携体制概要書(重度化した場合の対応等を含む)」の説明を行い、同意をいただいている。重度化が進んだ段階で再度話し合い、ご本人様やご家族様の意向を尊重できるよう、事業所としてできる支援体制を整えていきたいと思っている。	ホームの方針を説明し、状態の変化に応じて再度話し合い、ホームででき得る支援を行っています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を行い、救命処置の流れや止血方法、窒息時の対応等を学んだ他、緊急時マニュアルは異常の見極めポイントなどを新たに加え、研修も行い、職員全員がすぐに動ける実践力を身に付けている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の防災訓練を予定し、皆で反省点や改善点に向き合い、より安全な流れを繰り返して災害対策に努めている。避難訓練や通報訓練、消火器や発電機の使い方を、職員全員が身につけている。	水害を想定した訓練も行っています。法人内で避難場所を設定し、消防団の協力体制もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄に関する誘導の際には、言葉や声のトーン、場所、接し方に配慮し、さりげなく対応するように心掛けている。プライバシー保護に関する研修や接遇マナー研修で配慮のある声掛け等を学び実践している。	その人の誇りを損ねることのないよう対応の仕方には気をつけています。トイレ誘導の際にはあからさまな声かけをしない等、利用者の気持ちに配慮しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容支援の他にも、洋服をご自分で選んでもらったり、美容院でパーマをかけたり、愛用の化粧品や洗顔フォームを購入したりする支援を行い、毎日の生活に彩りを添えるお手伝いを継続して行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる力を活かして調理や盛り付け、後片付けを毎日一緒に行っている。また記念日にちなんだ食事やおやつも作り、行事食は昔のことを話していただきながら作り、食材の切り方や食器も相談して決めている。	調理や盛り付け、後片付け等に積極的に或いは声かけにて参加し、職員と一緒にしています。お菓子づくりや畑作業も一緒にを行い、利用者の力を活かすことができる場面が多くみられます。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分は、主治医に確認しながら摂取量をチェック表を用いて管理し、口腔内や嚥下状態に応じて形態を工夫しながら提供している。一人ひとりの飲食の習慣を大切にしながら、過不足がないように支援している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師等の指導もあり、毎食前の口腔体操や毎食後の磨き残しの介助、朝と就寝前の舌ブラシの使用、夜間の義歯装着を支援しており、歯磨きが困難な方には緑茶でのうがい等を支援している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して誘導し、失敗を減らす排泄の支援を行っており、全員がトイレ排泄できている。また、一連の排泄動作の中で、困難な部分のみ介助するようにしており、自立に向けた支援を行っている。	全員トイレで排泄しています。チェック表を活用してその人毎の支援が行われ、排泄用品の使用の仕方にも家族の費用負担に配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず排便できるよう、乳製品の提供やオリゴ糖の活用、水溶性食物繊維の粉の活用、食物繊維の食材を多く使用している。毎日の体操には腹部をひねる運動や入浴時の腹部マッサージなども取り入れている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	血圧等の状態にもよるが、好みの時間や湯温、入浴剤、その日の気分など、できる限り希望に添えるように支援している。バスリフトを設置できるようになっており、浴槽からの立ち上がり等が困難な方に使用できる。	週2回の入浴を確保し、その人の活動に合わせて午前或いは午後の入浴時間をつくっています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や希望に合わせて、居間やホールのソファでも休息できるようにしている。また、電気毛布等を使用される方もおり、温度や湿度の確認、好みの寝具等を把握し、気持ちよく休める支援を行っている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	トリプルチェックで声出し確認を行い、飲み込むまでの確認をしている。特に処方薬の変更時には、医師や薬剤師から副作用や注意事項等を聞き、その内容は職員へ周知し、状態の変化等を注意深く観察している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の出来る力を最大限に発揮していただき、家事作業や様々な役割活動、やりたいことの実現に向けた支援を行っている。作業等をお願いするだけでなく、楽しみながら行っているかを見極め、対応している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	「外の自動販売機でジュースを買いたい」「パーマをかけに行きたい」「子とドライブに行きたい」「お墓参りに行きたい」等の希望に対しては、ご家族様等の協力もあり、実現できている。今後もご家族様や地域の方と協力しながら、行きたいところへ行けるよう支援していきたい。	日向ぼっこ、畑や花壇の手入れ、図書館や花見ドライブに出かけています。家族の希望も取り入れ、協力を得ながら外出の機会を増やしていくことを検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金や財布がないと不安になる入居者様もいるため、ご本人様管理で少額のお金を所持している方もいる。個別に出掛ける際には、計算していただきながら、適切にお金を使うことができるように支援している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が持ってきたお花を活けたり、季節毎に掲示物を交換したりして、季節を感じるような工夫をしている。また、居間から台所が見え、包丁の音や煮物の匂いなど五感を刺激する生活感もあり、椅子やソファに座ってゆっくりと過ごせる空間になっている。	2ユニットが廊下で繋がっていて利用者が自由に往来できるようにしており、所々に腰掛けやソファが置かれています。利用者の作品やその時季の展示物で季節感を演出しています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では両ユニットの入居者様が行き来し、居間やホールの椅子やソファに座って休まれたり、マッサージ機を利用したり、好きな時に、好きな場所で、好きな方と過ごすことができるようになっている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みは原則自由にしており、テレビやタンスの他、遺影や仏壇などを持ち込まれ、毎日お水を替えたり、初物をお供えして手を合わせてたりして、ご自分の心休まる時間を過ごされる方もいる。	馴染みの物を持ち込み、安心して過ごせる居室づくりをしています。洗濯物を自室で干し、自分の生活の場として過ごせるよう工夫している方もおります。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ヒヤリハットや事故報告書を活用したり、改定長谷川式簡易知能評価スケールの判断シートを活用したりすることで、日常生活上のリスクを減らし、ご自分の力で安全に生活できることに繋がっている。		